

# 地盤環境の変化に着目したダム湖の応用生態工学的研究、地域活動

- 福島県阿武隈川水系に建設された三春ダムをフィールドにして -

## 【目的】

1. ダムの出現に伴う環境の変化を長期にわたり観察する。  
**土砂の移動と自然環境(植生や河床材に着目して)**
2. 自然環境を通じて地域に貢献する。

## 地域活動



応用生態工学研究所  
試験湛水前の  
H7より研究開始

三春ダム(さくら湖)  
H10年竣工(国土交通省管理)

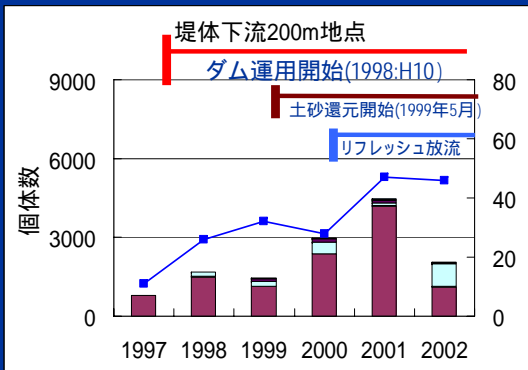
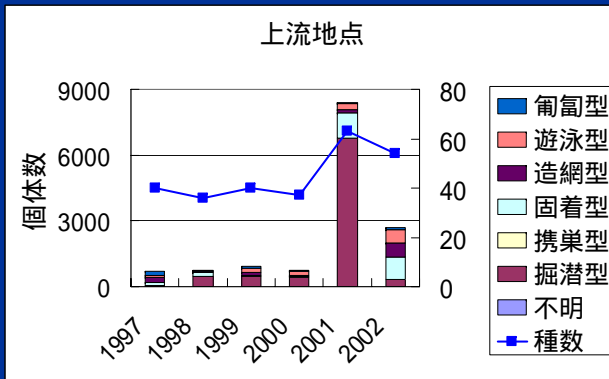


応用地質(株)

# 1. 土砂の移動と自然環境(植生や河床材に着目して)

	ダム下流	湖畔	ダム流入部
土砂の移動	・中州がやせた。 ・河床は粗粒化。	地盤(土壌)の変化は少ない。	河岸に土砂が堆積。
環境の変化	河床が粗粒化したが、底生動物の変化は少ない。	冠水日数が多い植物は枯死。 事前の伐採計画に反映可能。	河岸に植生が発達。

ダム上下流の底生動物の経年変化



ダム上下流を比較し、経時的に似た傾向を示す。ダム下流の底生動物相は、種数が増えつつあるが、優占する生活型は変わらず、大きな変化はない。

試験湛水後の湖畔の林

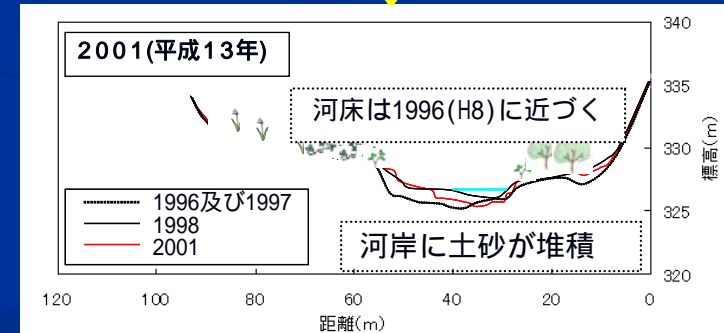
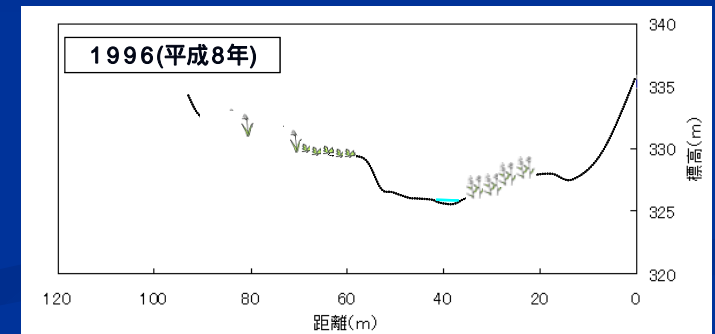


・冠水53日以上  
・高木の枯死あり。成長量の低下はなし。  
・低木層・草本層への影響あり。

・高木の枯死なし成長量変化なし。  
・低木層・草本層の変化少ない。  
樹林は維持された。

根元の冠水日数が37日より少ないと、樹木枯死はなく、植生の変化も少ない。土壌の侵食も水際部を除きなし。

ダム流入部の地形と植生



ダム流入部は、試験湛水時に土砂が堆積した。河床は元の高さに近づいたが、河岸は堆積したままで、ヤナギ林が発達した。流入部のヤナギ林は出水では破壊されにくい。

## 2. 地域活動

# さくら湖自然環境フォーラム2008

と き:平成20年10月13日(月・体育の日)  
と ころ:第一部 バス・バスターズ(滝/平野外劇場)  
午前8時受付 ※ 申込み小学生対象  
第二部 さくら湖自然環境フォーラム  
(さくら湖自然観察ステーション)  
午後1時~ ※ 一般公開

★ 主 催 : さくら湖自然環境フォーラム実行委員会  
三浦ダム自然環境協議会 三浦ダム自然環境まちづくりの会 中津まちづくりの会 高尾まちづくりの会 高尾山自然環境協議会  
三浦湖自然環境協議会センター 三浦湖上野原川自然環境協議会 三浦湖自然環境協議会  
★ 共 催 : 外來種対策委員会(国土交通省 高尾山 阿波湖川漁業協同組合)  
★ 後 援 : NHK 福島放送局 福島放送社 福島放送新報社 阿波湖川漁業協同組合 三浦湖自然環境協議会  
田村市教育委員会 日本大学工学部 福島大学 大滝川川自然環境生活水対策推進協議会  
さくら湖自然環境ネットワーク  
★ 協 賛 : (社)東北建設協会  
★ 問い合わせ先 実行委員会事務局 電話:0247-82-8887(三浦交番内)

さくら湖自然環境フォーラム実行委員会



2000(H12)年より「さくら湖自然環境フォーラム」の実行委員会の一員として活動中。

### 【三世代アンケート】

フォーラムに参加する三春町、田村市の小学生を対象に、児童世代(小学生)、父母世代、祖父母世代の各々に小学生高学年時の水辺や遊びの様子をアンケートしました。

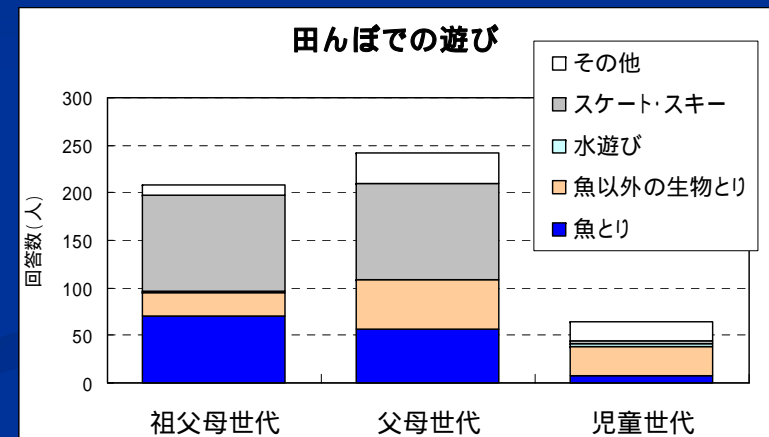
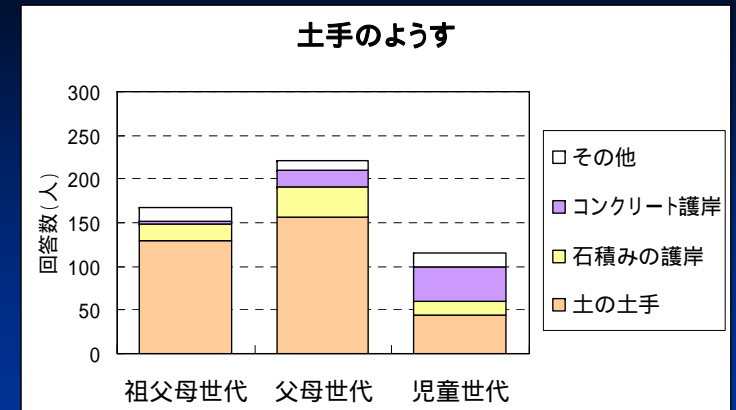
土手の様子、田んぼでの遊びなどに違いが見られました。

昔は田んぼに水が張ってあったため、冬季はスケートができましたが、今は、圃場整備が進み、冬季は乾田となっています。

アンケート結果をフォーラムで発表。



バス・バスターズフォーラムでは地引網なども実施。



祖父母世代に描いていただいたドジョウ取り(ヤス使用)の様子。